

10・21国際反戦デーへ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2015年10月19日
No.330

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

広大自治会選挙が72%の信任で大勝利！

◆新委員長・森田君アピール

164の信任票を受け、72%の信任率で広大学生自治会の委員長となりました森田です。

本当にみなさんの投票・信任ありがとうございました！ 選挙期間が非常に短い電撃的な選挙戦だったにもかかわらず、多くの広大学生から信任票を投じられたことに大きな力を感じています。開票してみると、余白に「バツにする理由がない」と書いて断固たる信任票を投じてくれていた学生もいました。

164の信任は単なる“数”ではありません。戦争切迫情勢のもとで声をあげ、本質的な行動に立ち上がらなければと考えている広大学生が164人もいるのだということです！

この信任はまずなによりも、安保法制成立下での戦争協力絶対反対の闘いへの支持だということです。

安保法制と一体で、戦争体制が具体的に大学から作られていること。防衛省の3億円規模の軍事研究公募に58大学が応じていることを暴露してきました。この大学のあり方に対し、実際に軍事研究を担わされていくのは私たち学生自身であること。学生が戦争協力を拒否すれば戦争はできないということが核心です。学生自治会のもと、信任してくれた164人が中心となって、戦争協力絶対反対を訴えて広大学生がキャンパスから行動に立ち上がれば、本当に戦争を止めることはできます！

米軍が作戦計画5015を策定して北朝鮮への先制攻撃を準備し、朝鮮半島での戦争危機が極限的に高まっている中で、日本が安保法制の成立をもって朝鮮有事と言って実際に戦争に入っていくとしています。この戦争のリアリティの中で、「平和の大学」であり、死の商人・三菱重工が経営に入っている広島大学から、広大学生自身の戦争協力絶対反対の信任によって学生自治会が打ち立てられたことが、戦争を阻止する大きな影響力を持つことは間違いありません。また今回の信任は、単なる戦争反対ではなく、ストライキという実力行動を辞さない団結を求める信任です。

戦争協力は、「大学の決定」「国家の決定」の圧力のもとで進められていくのだと訴えてきました。10月1日に発足した「国家戦略として」武器輸出と軍事研究・軍事開発を一手に担う防衛装備庁が発足し、この圧力は更に高まっていきます。この国家的な重圧を跳ね返すために、個人で戦争反対と思っているのではなく、自治会のもとに固く団結してストライキを巻き起こしましょう！

戦争とストで闘う自治会信任は、戦争反対の怒りを圧殺し、団結の核となる学生自治会解体を狙った、公安警察による全くもって許しがたいでっち上げ事件であり家宅捜索に対して、断固たる反撃を叩きつけるものとなりました。弾圧を跳ね返す団結こそが戦争を止める力です。その大きな一歩をすでに踏み出しています。さらなる弾圧を恐れず、今回の信任に表された団結を信じて立ち上がろう！でっち上げ逮捕されている4人の学生を奪還しよう！



森田新広大自治会委員長（右）

そして、今回の信任は、広大だけではなく、全学生・全労働者を勇気づける信任です。

8～9月、100万人とも言われる学生・労働者が本気で安保法制を阻止するべく行動に立ち上がりました。全国から国会前に集まった学生や労働者は、どうやって戦争を止めるのか心の底から求めています。戦争協力させられる現場から反戦ストライキをと訴える自治会が信任されたことは、こうして立ち上がった膨大な人々に、どれほど勇気を与えるものになるのでしょうか！

選挙戦の中でも、東広島住民や全国学生から応援メッセージが寄せられ、生協労組や元三菱重工労働者、安芸太田町住民から応援演説を受けました。かつて三菱重工で働いていた斉藤さんは、「70年代、学生の反戦ストに応えるべく、兵器を作らされるその現場から政治ストを打ちぬいたんだ」と、学生がキャンパスから立ち上がることの意義を訴えてくれました。広大から巻き起こす戦争絶対反対のストライキが、どれほど待ち望まれているかが示されていたと思います。キャンパスを超えた団結に確信をもって、反戦ストライキに向かいましょう！

京都大学ではこれから本当の反戦ストに入っていきます。この闘いはまさにキャンパスを超えた一つの闘いです。世界の闘う仲間と団結する10・21国際反戦デーから、10月京大反戦ストに駆けつけましょう！

○4名の学生を取り戻すための
救援カンパにご協力お願いします！

獄中への差し入れや弁護士接見など、多額の費用がかかります。
ぜひとも、救援カンパを寄せてください。

（郵便振替）001 90-0-7661 12
「全日本学生自治会総連合」

4名奪還！ストライキで戦争とめよう！

10・16東北大集会 圧倒的に打ち抜く！

10月16日、川内北キャンパス中央で東北大学学生自治会による「4人の仲間を取り戻そう！

ストライキで戦争をとめよう！」緊急集会が開かれました。（右写真）冒頭に参加者全員でシュプレヒコールを挙げた後、学生自治会副委員長の司会で集会が始まりました。青野副委員長は、「4学生の逮捕は学生運動・反戦運動つぶしが目的の弾圧である」と今回の弾圧の本質を暴き、「学生はキャンパスから、労働者は職場からゼネストを起こし戦争を止めよう」と今秋ストライキ方針を宣言しました。

その後、東京から駆けつけた齋藤郁真・全学連委員長がマイクを握り、公安警察のスパイ化攻撃＝戦時下弾圧だということを厳しく指摘し、「平穏なキャンパス」「普段通りの授業」にこそ大学の戦争協力があるとキャンパス中に訴えました。

さらに続いて、14日の勾留理由開示公判に駆けつけた1年生から、「裁判所と公安警察は一体だった」「三権分立どこか三権独裁だ」と、腐りきった裁判所への強い怒りが発せられました。全



金本山労組の長谷副委員長からは、学生と労働者が連帯して闘ってきた歴史が紹介され、学生運動の爆発を期待して力強く喝を入れてもらいました。

最後にもう一度シュプレヒコールを挙げて、参加者全員が4学生の奪還へと再度決意を打ち固めました。集会中にも多くの学生と議論になり、この間討論をしてきた学生も集会に参加し、大成功でした。4学生奪還—東北大ストに向けて、東北大学生自治会は進撃します。ゼネストで安倍政権打倒し、戦争を止めよう！

【当面する行動方針】

●10.21国際反戦デー闘争

10月21日(水) 法政大学デモ 法政大学・市ヶ谷キャンパス／12時半集合、13時半デモ出発
渋谷大街宣 渋谷駅・ハチ公前広場／16時～
渋谷デモ 代々木公園・ケヤキ並木通り／18時半集合

●“闘う労働組合を甦らせよう！” 11・1全国労働者集会

11月1日(日) 正午～ 東京・日比谷野外音楽堂にて(集会後に銀座デモ)

呼びかけ：全日建関西地区生コン支部／全国金属機械労組港合同／動労千葉／国鉄闘争全国運動